

A La Carte 8th

27 Jul. - 8 Aug. 2021 Funabashi Citizen Gallery



船橋市民ギャラリー
273-0005 千葉県船橋市本町2-1-1 船橋スクエア21ビル3F
Tel: 047-420-2111 Fax: 047-420-2112 E-Mail: sougou@f-bunpo.or.jp
JR総武線船橋駅南口徒歩7分・京成線京成船橋駅徒歩5分

名雪大河 Taiga Nayuki ¹²
西川昇真 Syoma Nishikawa ¹³
林頌介 Kohsuke Hayashi ¹⁴
VIKI ¹⁵
松田直樹 Naoki Matsuda ¹⁶
丸子万葵 Maki Maruko ¹⁷
水谷真弥子 Mayako Mizutani ¹⁸
八木さやか Sayaka Yagi ¹⁹
山崎慧 Kei Yamazaki ²⁰



第8回 アラカルト

令和3年7月27日[火]—8月8日[日] 船橋市民ギャラリー
10:00—19:00(最終日は16時まで) 会期中無休・入場無料

主催=公益財団法人船橋市文化・スポーツ公社、ふなばし現代アート展「アラカルト」実行委員会 共催=船橋市教育委員会
後援=船橋市、朝日新聞千葉総局、千葉日報社、毎日新聞千葉支局、読売新聞千葉支局、株式会社ジェイコム千葉YY船橋習志野局

石神雄介 Yusuke Ishigami ¹
伊東五津美 Izumi Ito ²
瓜生剛 Tsuyoshi Uryu ³
小國玄眞 Haruma Oguni ⁴
川越健太 Kenta Kawagoe ⁵
木床亜由実 Ayumi Kidoko ⁶
佐貫巧 Takumi Sanuki ⁷
シャングリラセーコー Shangri La Seiko ⁸
諏訪部佐代子 Sayoko Suwabe ⁹
中垣拓磨 Takuma Nakagaki ¹⁰
中山開 Kai Nakayama ¹¹
名雪大河 Taiga Nayuki ¹²
西川昇真 Syoma Nishikawa ¹³
林頌介 Kohsuke Hayashi ¹⁴

A La Carte 8th

27 Jul. - 8 Aug. 2021 Funabashi Citizen Gallery

◎写真は参考作品です。出品作品と異なる場合があります。●1=石神雄介《星を見た日》2020、クレベás、画用紙、240×170 mm ●2=伊東五津美《Sun room》2021、漆、木材、FRP、LEDライト W2000×D3600×H2800 mm ●3=瓜生剛《陽だまり(玉川旅館)》2021、キャンバス・油彩、W2000×D1900×H2800 mm ●4=木浦由実《或る星》2020、キャンバス、油彩、410×410 mm ●5=川越健太(IP paper relief 19, [Steel study for Pad E, The Flagellation / Bottom right of three split up or Three drapes] 2020, キャンバス、油彩、437×337×25 mm ●6=木浦由実《九つの先》2021、キャンバス、油彩、1167×1167 mm ●7=佐藤真功《Counterpart 03》2021、キャンバス、アクリル絵具、鉄、437×337×25 mm ●8=シャングリラセーコー《めのめんズ》2020、キャンバス、油彩、アクリル、ミクストメディア、910×277 mm ●9=諏訪部佐代子《かつて毛のない鳥の星を支配していたらしい》2020、キャンバス、油彩、ガラス、砂岩、H700×1167 mm ●10=佐藤真功《Counterpart 1》2020、キャンバス、油彩、修正テープ、アクリル絵具、リサイクル紙、900×900 mm ●11=中山開《中庭》2019、色画用紙、修正テープ、アクリル絵具、ソライクシート 11=中山開《絵画のエスキーズ》2019、紙、インクジェットプリント、修正テープ、削鉛、有孔ボード、900×900 mm ●12=名雪大河《伝大な青い鳥》2020、キャンバス、油彩、803×1000 mm ●13=西川昇真《トライアングル》2021、キャンバス、アクリル絵具、215×250 mm ●14=林頌介《テスビース(O...)》2019、紙、インクジェットプリント、修正テープ、削鉛、アクリル絵具、215×250 mm ●15=丸子万葵《inches》2021、キャンバス、油彩、803×1000 mm ●16=松田直樹《参考作品》2021、キャンバス、アクリル絵具、602×727 mm ●17=松田直樹《参考作品》2021、キャンバス、アクリル絵具、297×420 mm ●18=水谷真弥子《葉と笑い》2021、キャンバス、油彩、803×1000 mm ●19=八木さやか《電線と私にによる色面構成 No.4》2020、木製ハネル、アクリル絵具、297×420 mm ●20=山崎慧《葉っぱを並べる》2021、メディウム削り、トレーシングペーパー、アクリル絵具、297×420 mm

石神雄介—1

目にしたものが「絵になるな」と思い、描いてみると、さきまで見ていたものが別の世界だったように感じられます。絵の枠組みを見発したら、その枠組みの外を作り、自分自身は絵の枠外へと外れていきます。先程までの自分が何かの模型だったかのように思えてきます。そんな感覚で制作しています。



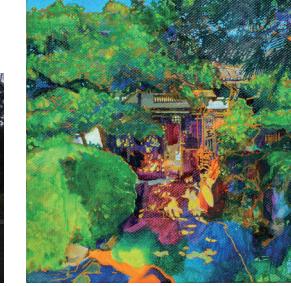
伊東五津美—2

場所の移動における視点の変化をテーマに主にインスタレーション作品を作っている。移動先で出会う文化や素材、自身の身体を移動する過程の中で五感から得られる情報を基に作品を展開している。今回は生まれた町について考察し、作者の原風景を描く。



瓜生剛—3

訪れた場所・体験した事象を核として制作しています。コロナの蔓延により行動が制限された今、過去の出来事を度々振り返ることが増えた人も多いと思います。あのきらめく瞬間をことごとく思い出します。体験した記憶を、色彩で補いながら、絵の具を「透層／積層／増殖」させ、画面に「蓄積／侵蝕」させていきます。自分自身の記憶の位置軸を絵画の中で見つめています。



小國玄眞—4

滲む毒で輪郭を溶かし、美しいものを依り代に日々の備忘録を綴る。事柄も想いも伝わらなくとも、元より伝えるつもりがなくとも、それらを無かったことにはしたくない。ただ、それだけ。



川越健太—5

作品を架ける壁を探す。ギャラリーを歩き回しながら、緩やかな制約を受け入れつつ自らの作品が求め備えている条件から、適当な壁を見出していく。だからその壁は孤独な理由によって選ばれている。にもかかわらず、ここでは展示の度に思いがけない新鮮さを見つけることができるのだ。



木床亜由実—6

星空や地面、水など自然界の物をモチーフとして描いています。有機的な形態や線を描くのが好きです。平面的だったり重力から解放されたり、モチーフの大きさが自由であったりするような絵画でしか成し得ない空間づくりをしたいです。



佐貫巧—7

観る者と呼応して現れる「かたち」が、生活中で感じるイメージや記憶と密接に関わることをテーマとして制作しています。



シャングリラセーコー—8

ふと買い物をしに出掛けた先で、幼稚園児たちの自画像がぎゅうぎゅうに並んでいた。みんな同じ構図で髪や肌や口などは同じ色だった。背景は全員白かった。僕はとても異様な光景でした。最初は嫌悪感を見えない大人に対して抱きました。でもじっくり見ていると一人一人違う顔でした。気づいたら僕は一枚一枚真剣に絵を見てました。



諏訪部佐代子—9

人生の長さは非常に僅かですが、どうにかしてそれを超えた時間を考えるために作品を制作しています。



中垣拓磨—10

素材とモチーフの距離感、自分との関わりを探っています。幼少の頃の体験や身近に起こった出来事を元に空想の建築マケットを築く。アラカルト3度目の参加。



中山開—11

白い淵の縁



名雪大河—12

カエルを擬人化して人間の行いの異質さをテーマに描いています。カエル達が見せる様々な表情をお楽しみください。



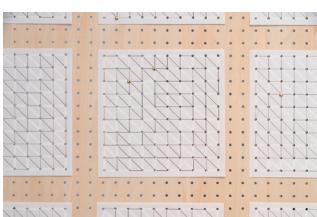
西川昇真—13

普遍的で
浮遊感をもった
永遠となるもの。



林頌介—14

いくつかのものごとが寄り合わっていて、その構成要素は別々の原理をもっているが、それらが特定の配分においてのみ「ある感覚」を表出することがあり、ゆえに紐解いていってもその具体的な要因に到達できないので、要するに別のものに置き換えることができない。



VIKI—15

東京藝術大学先端芸術表現科在学中。日常的で記憶に残らないような時間や消費行動を「時間のさざれ」とし、情報社会に生きる自身と他者との関わりや「個」としての在り方など、時間に纏わる言語を考察しながら制作をしています。



松田直樹—16

数年前から、私の生活環境は大きく変化し、それに伴い、美術と生活を同列で考えたいという想いに至る。今までのような制作からは離れて、故郷や自然、家族、思い出。全て生活の出来事だ。そういう絵を毎日描いている。



丸子万葵—17

子供がそろそろ3歳になる。絵とじっくり向き合う時間を少しづつ作れるようになってきた。故郷や自然、家族、思い出。全て生活の出来事だ。そういう絵を毎日描いている。



水谷真弥子—18

私は主に植物をモチーフに自然の美しさを油絵で描いています。花びらの薄さや茎のおもしろいかたち、風にそよぐ木の葉のざわめき、ちらちらと透けて見える木漏れ日。物言わぬ生命のきらめきを見つめ、これからも丁寧に描き続けたいです。



八木さやか—19

ずっと前から、空に走る電線の、線の美しさに魅了されています。眺めていると、電線に分けられた空の形にも心惹かれて、それを自分の好きな色や、日々変わる空の色に色分けてみたいと思うようになりました。それを実際に作品にしたものです。



山崎慧—20

私は葉っぱをモチーフにすることが多くあります。なぜ葉っぱなのか。それは版画を使って制作するためではないかと考えます。版画はその特性上、薄かったりしなやかであったり廉価である紙へ印刷されることが多いのですが、印刷された紙は、水分や油分に反応して反ったり撓んだりします。その様子が、なんだか葉っぱを思わせます。そんな理由で、版画を用いて紙の作品をつくるのであれば、葉っぱをモチーフにするのが然るべき。と思い至りました。しかし本当は、ただ身近でよく目にするからだけかもしれません。

